

今どきの若者事情④

次世代を活かすために

JESUS FAMILY みどり野キリスト教会

ユース・パスター 西村希望のぞみ

先日、19歳の青年が、父親に注意をされたことに腹を立て、車で人をひき殺したという恐ろしい事件がありました。

青年は、こう言っていました。

『だれでもよかった』

この事件の被害にあった本人、そして遺族にはどうにも受けとめ難いことばでしょう。このようなニュースはあまり耳にしません。が、今の時代を象徴している事件でもあると思います。

大人のメッセージの中で時々耳にすることは『今の若者は挨拶もできずに、しようがない』というものです。若者たちを責めるのは簡単ですが、私たち大人がしなければいけないことは、なぜそのようななっていったのか、また、なぜこのような悲しい事件がおこるようになったのかを考えることではないでしょうか。

別の事件ですが、若者が人をひき殺して、

逃げ回っている間に、友人と笑いながらラーメンを食べようとしている映像がニュースで流れ、衝撃を与えました。これらの事件を通して、考えなければならぬのは、これがたまたま偶然に起きたものであるのか、それとも必然的に起こったのかということです。私は、突然に起こった事件と考えることができません。

若者は親の生き方を継承する

現代の若者の生き様は、私たちの生き方の継承であり遺産です。今の若者は、私たちのこれまでの人生の生き写しです。ただし、すべてのものが悪いといっているわけではありません。たくさん良いものが次の世代へ引き継がれ残されています。多くの人は、賢明に生き、そして良い模範を示してくれています。

しかし、私たちは今一度、自分たちの生き方と心を吟味すべきではないでしょうか、その中で足りないところは、謙遜な心をもって受けとめ変えていく必要があります。隣人の失敗を見て裁いたり否定的に受けとめるのではなく、自分も同じことをする可能性があることを覚え、同じ過ちをしないように受けとめる姿勢が大切です。

さらには、次の世代の良い模範、モデルとなるようにできる限りの努力が必要です。ユ一

スパスター（青年担当牧師）であり、また学校の教師として、多くの子どもと関わるなかで、子どもたちの心、性格、姿勢を見ると、私は親の姿を想像することができます。

子どもは親の分身です。ある子は、笑い方や癖まで親そっくりです。本人が否定しても、瓜二つです。次世代は、良いところも悪いところも、私たちをモデル、教科書として見受け継いでいくのです。ですから、私たちは必死になって、良い模範となるように、心がけ、最善のモデルとなるように実践していかねければなりません。

次の世代が良くなるも悪くなるも、彼らが生きるも死ぬも、私たち大人にその責任があるのです。私たちが彼らを愛し、良い模範を示し、彼らに仕え犠牲を払うならば、必ず彼らは活かされるはず。主の願いは、次世代が活かされることです。

傷を持つ少年とともに暮らして

数年前のことですが、私たちの教会で1人の少年を引き取り、一緒に生活することになりました。この子は親に捨てられ、おばあちゃんに育てられていましたが、手に負えなくなり、どうにもならなくなって、私たちのところにやってきました。（以下略）